

「古事記」和銅五(七二二)年

- ・出雲国と伯岐国の境の「比婆之山」へイザナミを葬った記述
- ・「肥河上」(斐伊川上流域)へスサノオが降臨した記述
- ・「安芸国多祁理宮」へカムヤマトイワレヒコが滞在した記述

「日本書紀」養老四(七二〇)年

- ・一書に、「安芸国可愛之川上」(江の川上流域)へスサノオが降臨した記述
- ・「埃宮」へカムヤマトイワレヒコが滞在した記述
- ・「波区芸県主」として吉備氏一族を任命した記述(応神天皇二年) . . . 「五世紀」?

※「国造本紀」にも「波久岐国」とある

「吉備国」「備後国」という国名の記述 . . . 「七、八世紀」

「備後国司」が神石郡の白雉を貢納(天武天皇二(六七三)年三月十七日条)

「吉備国」の最後の用例(天武天皇十一(六八二)年七月二十七日条)

※天武天皇:「古事記」「日本書紀」編纂を命令、「日本」国号「天皇」称号を開始

※律令国家整備過程で「備前、美作、備中、備後」が成立していった

※「日本書紀」に、百濟から生還した三谿郡大領の祖先が三谷寺を建立した記述

「出雲国風土記」天平五(七三三)年

・備後国境付近に関する記述 . . . 「八世紀」

「山」 室原山(三国山)、遊託山(烏帽子山)、御坂山(猿政山)、多加山(大万木山)

「鹽味葛」 鳥上山(船通山)、室原山、遊託山、御坂山、琴引山 ※エビカズラ(ヤマブドウ)

「剗」 遊託山、比市山(毛無山)、荒鹿坂(草峠)、三坂(赤名峠)

平城京跡出土木簡

・鉄生産に関する記述 . . . 「八世紀」

「備後国三上郡調鉄老拾口 天平十八年」(七四六年)、「備後国三谷郡」、「備後国三次郡下三次里人」

「類聚三代格」平安時代中期(十二世紀頃)

・糸から鉄への調の変更の記述 . . . 「九世紀」

「備後国神石奴可三上惠蘇甲奴世羅三谿三次等八郡調糸相換鉄事」(延暦二四(八〇五)年十二月七日条)

「日本三代実録」延喜元(九〇二)年

・鉄産地としての記述 . . . 「九世紀」

「備後国神石奴可甲奴惠蘇世良三谿三次三上人郡僻居山間土宜採鉄

連年旱疾黎庶弊亡四年之間毎年四郡更復課役」(貞観七(八六五)年八月十七日条)

・神社位階に関する記述 . . . 「九世紀」

「備後国正六位上大神々、天照真良建雄神並授従五位下」(貞観五(八六三)年十月二十九日条)

※大神神を丑寅神社(庄原)、天照真良建雄神を須佐神社(小童)と天照真良建雄神社(内堀)に比定する説あり

「和名類聚抄」承平年間(九三一〜九三八年)

・備後国八郡、三二郷に関する記述 . . . 「十世紀以前」

神石郡 四郷。神石(かめし)、志麻(しま)、高市(たけち)、三坂(みさか)

奴可郡 四郷。刑部(おさかべ)、道部(みちべ)、斗意(とよ)、三上(みかみ)

惠蘇郡 三郷。惠蘇(えそ)、春部(かすかべ)、刑部(おさかべ)

三上郡 五郷。多可(たか)、信敷(しのぶ)、土木(とぎ)、神代(こうじろ)、三上(みかみ)

※三上は「御神」の義か(「芸藩通志」)

※奴可・惠蘇北方の国境を神の御山とする発想(「広島県史」)

三谿郡 五郷。三谷(みたに)、松部(まつべ)、江田(えた)、額田(ぬかた)、刑部(おさかべ) ※「松」は「私」か

三次郡 四郷。上次(かみよし)、播次(はたすき)、下次(しもよし)、布努(ふぬ)

甲奴郡 三郷。矢野(やの)、甲奴(こうぬ)、田総(たぶさ)

世羅郡 四郷。桑原(くわばら)、大田(おおた)、津口(つぐち)、軺張(とばり)

「延喜式」延長五(九二七)年

・式内社七座に関する記述 . . . 「十世紀以前」

奴可郡 迹比都売神社 (論社三:西城 爾比都売神社、小奴可 奴可神社、久代 高野八幡神社)

惠蘇郡 多加意加美神社 (向泉 多加意加美神社)

三上郡 蘇羅比古神社 (論社二:本村 蘇羅比古神社、川西 蘇羅比古神社)

三谿郡 知波夜比古神社 (論社二:高杉 知波夜比古神社、三良坂 知波夜比古神社)

三次郡 知波夜比売神社 (下布野 知波夜比売神社)

甲奴郡 意加美神社 (論社三:稻草 意加美神社、五箇 意加美神社、上下 八幡神社)

世羅郡 和理比売神社 (本郷 和理比売神社)、稻田姫命。イザナミ説もあり(「芸藩通志」)